

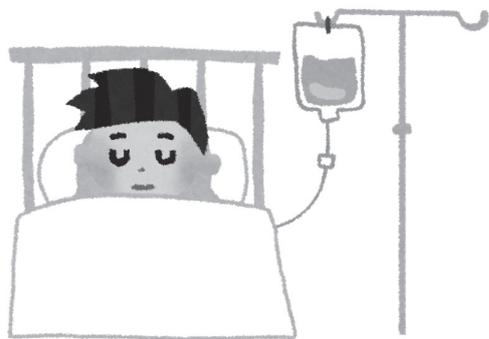


問 病児・病後児の受け入れの体制づくりを課題は多いが、ニーズを把握し検討したい

光風会 恵利 いつ 議員

議員 働いているまたは働きたいと思っている子育て世帯（特に母親）にとって、保育園や学童事業は大きな支えとなっている。女性の社会進出が進む中、病児や病後児を預かってもらえる施設が求められている。村の取り組みについて伺う。

福祉部長 東海村には、村外出身者などの核家族や共働き世帯も多い。病児・病後児保育施設の利用ニーズ（需要）は一定数あるものと考えられる。しかし、感染症予防に対応できる施設の整備、手厚い人員の配置、医師との連携など運営面において課題が多い。現在、全国的にも施設が充足しているとは言い難い状況。村内の利用ニーズを的確に把握し、先進事例を調査・検証した上で検討していく。



議員 少しでも前進させるために、取り組みやすいところから段階的にスタートしてみることが必要。拠点は、村立東海病院が最適ではないか。

福祉部長 病院との連携が必要であることから、村立東海病院が適していると考えられる。段階的、有効な実施についても検討していく。



問 図書館交流ラウンジでの就労支援の進捗は

答 今年度内に、就労支援の喫茶コーナーを開設

公明党 岡崎 悟 議員

議員 平成23年12月議会と本年9月議会で、図書館交流ラウンジを利用して、障がいのある方の就労支援をする喫茶コーナーの開設を求めた。本年9月議会で、図書館での就労支援・喫茶コーナーの開設の方向性が示された。その後の進捗を伺う。

教育次長 図書館交流ラウンジでの就労支援となる喫茶コーナーを開設するには、交流ラウンジ水回りのシンク等の改修工事が必要のため、工事費と備品費等を今議会で、補正予算として計上した。議会承認後、工事契約を行い、年度内には、喫茶コーナーが開設できる環境が整う予定である。

議員 運営に関する予定を伺う。

教育次長 喫茶コーナーの運営については、村内の3法人が前向きで、



図書館交流ラウンジ

環境が整い次第、調整に入る予定。27年度内には、障がい者の就労支援の場となる喫茶コーナーがオープンできる予定である。